

大分県日田市天瀬町方言



【大分県の方言区画】大分県は、九州地方の東北部に位置して、北に福岡県、西に熊本県、南に宮崎県と接している。東部は瀬戸内海、南東部は愛媛県を対岸にして太平洋につながる豊後水道に面しているため、福岡県や熊本県のほか中国地方方言の影響を少なからず受けている。本県の属する豊日（ほうじつ／ほうにち）方言は、九州方言的要素も有しながら、中国方言や四国方言との共通点・類似点も少なくない方言である。金田一（1977）では、本県の大部分が東京式アクセントに分類され、福岡県北九州地域とともに東京式三種のうちの外輪方言、西部の日田地区はその変種であって、他の九州各県域が一型アクセントや京阪式アクセントの変種に分類されると大きく異なるとしている。奥村（1958）では、県西部を除く本県の大部分を、九州方言ではなく、中国・四国西部方言に含めて区画している。

県内においては、地形、気象等の自然地理、交通、行政等の人文地理的分類から、北に「豊前（ぶぜん）」、南に「豊後（ぶんご）」、西に「日田・玖珠（ひた・くす）」に区別することが多い。県庁所在地の大分市は、豊後地域に入る。この区別をもとに、東部と南部の海岸部（島嶼含む）を別の区分として加えたものが、松田（1991）の提唱する県内の「方言区画四区分」であり、日田・玖珠地域は「西部方言」となる。地

形上、東側は海に開けているが、内陸部は山が多く陸路での交流が難しく、鉄道や道路が整備されるまでは河川や海による交通が盛んであり、瀬戸内海沿岸地域との交流が密であった。方言においてもその影響を受けていると言えるだろう。

【大分県日田市天瀬町方言について】調査地点の日田市天瀬町は日田市の東部、大分市中心部から約86kmに位置する。1955年の昭和の大合併で、五馬村（明治以降：は出口・塚田・五馬市・本城であった）、中川村、馬原村の3村が合併して栄村となり、1966年には天瀬町が成立した。さらに、2005年の平成の大合併で日田市に編入した。

天瀬町を含む日田地域は、隣接する福岡県や熊本県の方言の影響が見られる。たとえば、大分県内の他地域では聞かれない「ヨカ（良い）」などのカ語尾形容詞、文末詞の「～バイ」や「～テ（タイの変形と考えられる）」などが使われる。また、連母音の融合が盛んである点は、他の大分県方言の特徴と共通している。前述したように、アクセントは東京式の変種であり、県内の他地域とは異なる点がある。

【表記について】伝統的な日田地域の方言は、「つ」「づ」に対応して「トゥ（[tu]）」、「ドウ（[du]）」の音を持っていたと記録にあるが、当該調査の場合、それらの音声は観察されなかった。

他方、「せ」「ぜ」に対応して口蓋化した「シェ（[ɕe]）」や「ジェ（[dʒe]）」が現れ、現在でも高年層の話者であればこの音を聞くことができるが、活用についてはこの音的バリエーションが問題になることはないため、一貫して「セ」「ゼ」と表記することにする。

【調査概要】本稿の記述は、日田市天瀬で生育・居住し、外住歴のない高年層話者（女性・1949年生まれ）への聞き取り調査をもとに行っている。用例は、日田市大鶴本町の談話資料等（用例出典参照）からも引用した。引用元の記載のないものは、聞き取り調査の際に確認した例文である。

大分県日田市天瀬方言の活用表

《動詞》

		多段型 書く	多段特殊型 死ぬ	一段型 見る
終 止 類	断定非過去	カク	シヌル	ミル
	断定過去	カイタ	シンダ	ミタ
	命令	カキナーエ	シニナイ	ミナイ
		△カケ	シネ	△ミヨ
	禁止	カキナンナ	シヌルナ	ミナンナ
		カクナ		ミナサンナ
意志	カコー	シノー	ミロー	
推量	カクジャロー	シヌルジャロー	ミルジャロー	
接 続 類	連体非過去	カク	シヌル	ミル
	連体過去	カイタ	シンダ	ミタ
	中止	カイテ	シンデ	ミテ
	仮定	カキヤ	シンダラ	ミリヤ ミタラ
派 生 類	否定	カカン	シナン	ミラン
	丁寧	カキマス	シヌルヨ	ミル
	使役	カカセル	シナセル	ミサセル
	受身	カカルル	シナルル	ミラルル
	可能	カッキル	シニキル	ミキル
		カカルル	シナルル	ミラルル
		カケルル	シネルル	ミレルル
	尊敬	該当形式欠	該当形式欠	該当形式欠
	継続	カキョール	シンジョル	ミヨル
希望	カキテー	シニテー	ミテー	
のだ	カクトバイ	シヌルトバイ	ミルトバイ	

		二段型 起きる	二段型 開ける	来る	する
終止類	断定非過去	オキル	アケル アクル	クル	スル
	断定過去	オキタ	アケタ	キタ	シタ
	命令	オキナイ △オキー	アケナイヨ △アキー	キナイ △キー	シナイ △シヨ
	禁止	オキナンナ △オキンナ	アケナンナ △アクンナ	クンナ	スンナ
	意志	オクー	アクー アキュー	クー	シュー シユー
	推量	オキルジャロー	アクルジャロ	クルジャロー	スルジャロー
接続類	連体非過去	オクル	アケル アクル	クル	スル
	連体過去	オキタ	アケタ	キタ	シタ
	中止	オキテ	アケチ	キテ	シテ
	仮定	オキリャ	アクリャ	クリャ	スリャ (一)
派生類	否定	オキン	アケン	コン	セン
	丁寧	オキル	アクルヨ	クル	スルバイ
	使役	オキサセル	アケサセル	コラスル	サスル
	受身	オキラルル	アケラレル	コラレル	サルル
		オキラレル	アケラルル	コラルル	サレル
	可能	オキキル	アケキル	キキル	シキラン
		オキラルル	アケラルル	コラルル	サルル
		オキルル	アケルル	コレルル	セレルル
	尊敬	該当形式欠	該当形式欠	該当形式欠	該当形式欠
	継続	オキヨル	アケヨル	キヨル	シヨル
結果	オキチヨル	アケチヨル	キチヨル	シチヨル	
希望	オキテー	アケテー	キテー	シテー	
のだ	オキルトバイ	アクルトバイ	クルトバイ	スルトバイ	

多段型動詞の基幹音便形

語幹末子音	語例	活用形例(過去形)	作り方
k	書く kak·u	カイ-タ	kをiにする。「行く」ik·uはkをQ(促音)にし「イツ-タ」。
g	嗅ぐ kag·u	カイ-ダ	gをiにする。-タが-ダになる。
s	出す das·u	デー-タ	sをiにする。sの前の母音がaの場合はeに変え長音にする。
t/c	立つ tac·u	タツ-タ	t/cをQ(促音)にする。
n	死ぬ sin·u	シン-ダ	nをN(撥音)にする。-タが-ダになる。
b	飛ぶ tob·u	トン-ダ	bをN(撥音)にする。-タが-ダになる。
m	飲む nom·u	ノン-ダ	mをN(撥音)にする。-タが-ダになる。
r	切る kir·u	キツ-タ	rをQ(促音)にする。
w/ø	買う ka(w)·u	コー-タ	wを子音なしにする。wの前の母音がaの場合はoに変え、長音にする。

《形容詞・形容名詞述語・名詞述語》

		赤い	静か(だ)	学生(だ)
終止類	断定非過去	アケー	シズカバイ	ガクセーバイ
	断定過去	アケカッタ アカカッタ	シズカジャッタ	ガクセージャッタ
	推量	アケカロー	シズカジャロー	ガクセージャロー
接続類	連体非過去	アカイ	シズカナ	ガクセー
	連体過去	アカカッタ	シズカジャッタ	ガクセージャッタ
	中止	アコーシテ	シズカデ	ガクセージ
	仮定	アカケリヤ	シズカジャッタラ	ガクセージャッタラ
派生類	否定	アコーネー	シズカジャネー	ガクセージャネー
	なる	アコーナル	シズカニナル	ガクセーニナル
	副詞	アーク	シズカデ	—
	丁寧	該当形式欠	シズカデス	ガセクーデス
	のだ	アケーツバイ アケーンバイ	△シズカナンジャ △シズカナンヤ	該当形式欠

1. 動詞の活用の特徴

(1) 活用型と語類の対応

規則的な活用型として基幹多段型(以下「多段型」)、基幹一段型(同「一段型」)、基幹二段型(同「二段型」)がある。多段型は、所属動詞が多い基本型のほかに、限られた活用形で特別な形を持つ特殊型がある。おおよそ、多段一般型にはa類のうち「書く」・「居る」類が所属し、多段特殊型には「死ぬ」類、つまり古典語のナ変動詞が対応する。多段

特殊型の所属語彙は「シヌル(死ぬ)」と「イヌル(死ぬ)」の2語のみである。一段型には、b類の「見る」類(古典語の上一段動詞)と、「開ける」(古典語の下二段動詞)類のうち基幹が1拍の動詞、二段型には「開ける」類のうち基幹が2拍以上の動詞が所属する。

多段型の基幹にはア・イ・ウ・エ・オの5形、および音便形がある。接辞と融合してア段やオ段拗音になることもある。「カク(書く)」の場合、カカン

(kak·a-N)、カキナンナ (kak·i-naNna)、カク (kak·u)、カケ (kak·e)、カコー (kak·oR)、カキヤー (kak·jaR)、カキョール (kak·joRru) など。また、語幹末子音には、k (カ行)、g (ガ行)、s (サ行)、t (タ行)、b (バ行)、m (マ行)、r (ラ行)、w (ワ行) がある。語例は表「多段型動詞の基幹音便形」を参照。

多段型特殊型も、基本形に準じてア・イ・ウ・エ・オの5形、および音便形の基幹を持つが、シヌル (sin·u-ru) と、二段型動詞のように「ウ段形+r 行接辞」の形が混じる。語幹末子音には、n (ナ行) のみ。

一段型の基幹はイ段とエ段がある。まず「ミル(見る)」を例にすると、断定非過去形ミ-ル (mi-ru)、仮定形ミ-リヤ (mi-rja)、受身形ミ-ラルル (mi-raruru)、同受身形ミ-ラレル (mi-rareru)、否定形ミ-ラン (mi-raN) とラ行で始まる接辞が付き、多段型の r 語幹動詞に半ば対応した形となる。また、「ネル(寝る)」にも、否定形ネ-ラン (ne-raN) のような r 語幹動詞に対応した形が見られる。共通語よりも r 語幹化が進んでいる。

・カエッチェー ネラーナイカンキー タイソー オシエアンナルマーシター。(帰って寝ないといけないから、大変お世話になりました。)[日田市大鶴本町② 老年 夜]

二段型の基幹にはイ段とウ段、ウ段とエ段がある。「オクル(起きる)」の場合、オキル (ok·i-ru)、オキサセル (ok·i-saseru)、オキラレル (ok·i-rareru)、オキタ (ok·i-ta)、オキン (ok·i-N) など。オクル (ok·u-ru) は断定非過去形では使わず、連体非過去形のみで使う。高年層では断定非過去形もオクル (ok·u-ru) を使う人が多いが、次第にオキル (ok·i-ru) に置き換わっている。

・アサ ヨジニ オクルヒトモ オルバイ。
(朝4時に起きる人もいるよ。)

「アクル(開ける)」の場合、アク-ル (ak·u-ru)、アク-リヤ (ak·u-rja)、アケサセル (ak·e-saseru)、アケラレル (ak·e-rareru)、アケタ (ak·e-ta)、アケン (ak·e-N) など。二段型の存在は、九州の一部や和歌山県と同様に、古典語の「二段活用」の残存と言える。本調査からは、古典語の上二段活用語が下二段活用語に合流するような、大分県由布市庄内町(方言文法研究会編2017)の「三段活用」のような変化も「デケン(出来ない)」のみだが見られた。

・ニンゲン イッショーニ ヤッパ オタガイ デクルカ デケンカチュー ヤッパ サカイガ アルデスガ。(人間、一生に、やはりお互い、できるかできないかという、やはり境があるんですよ。)[日田市大鶴本町③ 老年 祝儀]

「デクル(出来る)」を除き、古典語の上二段活用語よりも下二段活用語のほうが「二段活用」を残している傾向が見られる。若い世代では、「二段活用」は使われず、共通語と同様の一段活用が用いられる。

不規則な活用をする動詞として「クル(来る)」、「スル(する)」がある。ともに一段型に近い活用をするが、「クル」はキ-タ (k·i-ta)、ク-ル (k·u-ru)、コ-ン (k·o-N) などのように、基幹が「キ」「ク」「コ」の三段に、「する」はサ-スル (s·a-suru)、シ-タ (s·i-ta)、ス-ル (s·u-ru)、セ-ン (s·e-N) などのように、基幹が「サ」「シ」「ス」「セ」の四段にわたる。

「クル」は、意志形クー (k·u-R)、使役形コラスル (k·o-rasuru) が特徴的である。「スル」では、意志形シュー・シユー (sjuR < s·i·juR)、使役形サ-スル (s·a-suru)、受身形サ-ラルル (s·a-ruru)、否定形セ-ン (s·e-N) が特徴的である。r 語幹化や一段型化の傾向は見られない。

(2) 各活用形の特徴

〈断定非過去形〉

多段型動詞は基幹ウ段、多段特殊型動詞は「ウ段形+ル」、すなわち「シヌル」「イヌル」である。一段型動詞と二段型動詞「オキル(起きる)」は基幹(=語幹)+ルである。二段型動詞「アクル(開ける)」は、「アクル」など「ウ段形+ル」となる。「来る」「する」は「ウ段形+ル」で「クル」「スル」となる。「オキル」以外は連体非過去形と同形である。

・ワタシワ マイニチ ロクジニ オキル。
(私は毎日6時に起きる。)

・マドー アクルヨ。(窓を開けるよ。)

・キンギョワ エサオ ヤラント スグ シヌルバイ。(金魚は餌をやらないと、すぐ死ぬ。)

〈断定過去形〉

多段型動詞は基幹音便形に、一段型動詞は基幹(=語幹)に、二段型動詞はエ段形に、「来る」「す

る」はイ段形に「タ」を後接した形をとる。連体過去形と同形である。「買った」が「コータ」になり、音便形が異なる。「出す」などの多段型s語幹動詞は、イ音便形化後に連母音の融合を起こして「データ」となる。

- ・リンゴー コータ。(リンゴを買った。)
- ・デガミオ データ。(手紙を出した。)

〈命令形〉

ぞんざいな命令形と通常使用する命令形がある。

前者は多段型動詞では「カケ(書け)」「シネ(死ぬ)」などのエ段形、一段型動詞・二段型動詞では「基幹(=語幹)+ヨ」、「来る」「する」では「キー(来い)」「シヨ(しろ)」になる。

後者は多段型動詞のイ段形、一段型動詞と二段型動詞の基幹(=語幹)、「来る」「する」のイ段形に「ナイ」を後接した形をとる。尊敬を表す接辞「ナル」が命令形に生き残っていると考えられる(カキナレ>カキナイ)。女性はどのような場面でもこの形がよく使われ、男性も使用することがある。

- ・ハヨ テガオ {カキナイ/カケ}。(早く手紙を書け。)
- ・マイニチ ニュースオ {ミナイ/ミヨ}。(毎日、ニュースを見ろ。)
- ・アツィーキ マド {アケナイヨ/アキー}。(暑いから、窓を開けろ。)
- ・イマカラ ココニ {キナイ/キー}。(今からここに来い。)
- ・ハヨ シゴツ {シナイ/シヨ}。(早く仕事をしろ。)

「カケ」「ミヨ」などの命令形は非常に強く感じられ、特に女性はほとんど使用しない。他方、「シナル(死ぬ)」の命令形「シネ」は、男女の別なく使える。

〈禁止形〉

断定非過去形に「ナ」を後接した形で表される。「居る」「起きる」「開ける」「来る」「する」のように断定非過去形語尾がルであるものは「ル」が撥音化するが、「シナル(死ぬ)」は「シナルナ」である。また、女性を中心に多用されるのは、「ミナンナ」のように「ナンナ」を後接させた形であり、尊敬を表す接辞「ナル」が禁止形に生き残っていると考えられる(ミナルナ>ミナンナ)。ただし、「シナル(死ぬ)」の禁止形はこの形をとらない。より丁寧には「ミ

ナサンナ(見なさるな)」となる。

- ・キタナイ ジオ {カキナンナ/カクナ}。(汚い字を書くな。)
- ・コゲナ サビートコニ イツマッデン オンナ。(こんな寒い所にいつまでも居るな。)
- ・ゼツタイニ シヌルナ。(絶対に死ぬな。)
- ・サミーキ マドー {アケナンナ/アクンナ}。(寒いから窓を開けるな。)
- ・クダラン バングミ {ミナンナ/ミナサンナ}。(くだらない番組を見るな。)

〈意志形〉

多段型動詞は「カコー」「シノー」などオ段長音形になる。一段型動詞は「ミロー」とr語幹化した形式になっている。語幹が2音節以上の二段型動詞は「起きよう」が「オクー」、「開けよう」が「アクー/アキュー」と、基幹イ段またはエ段形と意思接辞-juR(-jouに由来)が融合して[-Cu:]([Cju:])になる。「来る」「する」も同様に「クー」「シユー/シュー」になる。

- ・ヒトリデ テガミオ カコーカネー。(ひとりで手紙を書こう。)
- ・イマカラ テレビオ ミロー。(今からテレビを見よう。)
- ・マドー アキュー/アクー。(窓を開けよう。)
- ・イマカラ シゴツ シユー/シユ。(今から仕事をしよう。)

〈推量形〉

推量を表す形式として「ジャロー」を用いる。「ジャロー」は断定形に後接する。「ヤロー」も使うが、新しい形である。

- ・ハナコモ ソノバングミオ ミルジャロー。(花子もその番組を見るだろう。)
- ・ハナコハ トナリノ ヘヤニ {オルヤロー/オローバイ}。(花子は隣の部屋にいるだろう。)

「オロー」のようないわゆる状態動詞では意志形と同形も使用できるが、他の動詞では推量を表すことができない。「シノー」は上の世代で使用していたが、現時点の高年層では使用しない。なお、小野(1991)は大分県方言に様態推量があるとし、「アメガ フローゴタル(どうも雨が降りそうだ)」を挙げている。日田市天瀬町でも類似の表現ができる。

- ・コノ キンギョウ モースグ {シノーゴツ
シチョル。(この金魚はもうすぐ死ぬだろう。)

ただし、動作動詞でこの形をとることはできない。

〈連体非過去形〉

前述の通り、二段型動詞「オキル」以外は断定非過去形と同形である。「オキル」は「オクル」となる。

- ・アサ ヨジニ オクルヒトモ オルパイ。
(朝4時に起きる人もいるよ。)

〈連体過去形〉

前述の通り、断定過去形と同形である。

〈中止形〉

中止形は「テ」によって表される。「テ」は多段一般型動詞では基幹音便形、一段型動詞では基幹(=語幹)、二段型動詞ではエ段形、「来る」「する」ではイ段型「キ」「シ」に後接する。「開ける」の場合、「チ」も後接し、こちらのほうが伝統的な方言であり、「開ける」以外の動詞にも付くことがある。「テ」単独でも使うが、同じ意味・機能を持つ「テカラ」を使うことが多い。

- ・イマ ナカニネ ハナコガ otteカラ
タローニ ベンキョー オシエオルパイ。
(今、中に花子が居て、太郎に勉強を教えているよ。)
- ・マズ マドー アケチ ソレカラ ソージ
オ スル。(まず窓を開けて、それから掃除をする。)
- ・サイショニ ハナコガ キテカラ ソシテ
タローガ キタ。(最初に花子が来て、そして太郎が来た。)

〈仮定形〉

仮定形には多段一般型の基幹エ段形に「バ」、一段・二段型や「来る」「する」の基幹に「レバ」が後接して融合した「カキヤ」「ミリヤ」「クリヤ」「スリヤ(一)」が用いられる。最後の母音は引き延ばさないことが多い。多段特殊型動詞「死ぬ」と一段型動詞「見る」の場合、断定過去形に「ラ」を後接する形が用いられる。

- ・イマカラ テガミオ カキヤ マニアウバ
イ (今から手紙を書けば、間に合うよ。)
- ・マドー アクリヤ イー カゼガ ハイッ
テクルジャロー。(窓を開ければ、いい風が入ってくるだろう。)

- ・キョー コン シゴツ スリヤ(一) アシ
タワ ヤスマルル。(今日、この仕事をすれば、明日は休める。)

- ・コノ バングミオ {ミリヤ/ミタラ} カ
ンガエガ カワルカモシレンバイ。(この番組を見れば、考えが変わるかもしれない。)
- ・モシ コンキンギョガ シンドラ タロー
ガ カナシムヤローネー。(もし、この金魚が死んだら、太郎が悲しむだろうね。)

「ミリヤ」は対人的な場面、「ミタラ」は内省的な場合で使用するという使い分けがある。

〈否定形〉

多段型動詞はア段形に、二段型動詞「起きる」はイ段形に、二段型動詞「開ける」はエ段形に、「来る」は「コ」に、「する」は「セ」に、「ン」が付く。「見る」「出る」「寝る」などの一段型動詞で1音節語幹のものは「ミラン」「デラン」「ネラン」と基幹に「ラン」が付く、r語幹化した形になる。

- ・ワタシワ アンマリ テレビオ ミラン。
(私はあんまりテレビを見ない。)

否定過去形はいろいろな形がある。多段型動詞を例にとると、ア段形に「ジャッタ」あるいは「ザッタ」を後接する形は高年層で用いられる。「ンヤッタ」を後接する形は若年層(例文の青年層)で用いられる。

- ・ホントーン イッコー ワズロー Chol
コター シラジャーッタムンナギー。(本当にちっとも病気だということは知らなかったものだから。)[日田市大鶴本町② 老年 不祝儀]
- ・アント アウッチャー オモワザッタケ
ド メズラシュー ヒサシブリー オーチ。
(あんたと 会うとは思わなかったけど、珍しく久しぶりに会って。)[日田市大鶴本町③ 高年層 道で]
- ・カエリン クルマガネー モー コンデカ
ラネー モー ドンコーン ナラーンヤツ
タパーイ。(帰りの車がね、もう混んで、もうどうにもこうにもならなかったよ。)[日田市大鶴本町③ 青年層 帰宅]

〈丁寧形〉

丁寧体自体があまり使われない。多段一般型動詞

では、イ段形に「マス」が付く。「マス」や共通語の敬語形式を使用することはあるが、方言とは認識されない。

〈使役形〉

使役形は、多段型動詞のア段形に「セル」を、一段・二段型動詞の基幹に「サセル」を付ける。「する」は「サスル」、「来る」は「コ」に「ラスル」が付く。「来る」のみr語幹化が見られる。

- ・タロー シバラクー ナカニ オラセチヨキナイ。(太郎を長い間中に居させておきなさい。)
- ・ハナコニ ヒトリデ ニュースオ ミサセル。(花子に一人でニュースを見させる。)
- ・タローニ ヒトリデ シゴツ サスル。(太郎に一人で仕事をさせる。)
- ・ハナコオ ココニ コラスル。(花子をここに来させる。)

使役形自体は「する」と同様の活用型をとる。

〈受身形〉

多段型動詞はア段形に、一段型動詞は基幹(=語幹)に「ルル」を、二段型動詞「起きる」「開ける」は基幹(=語幹)に「ラルル」を後接する。「来る」は「コラルル」、「する」は「サルル」が用いられる。「(ラ)ルル」は二段型動詞に準じる活用をもつ「レル」「ラレル」は、「ルル」「ラルル」の新しい形として用いられる。

- ・コケタ トコロー タローニ {ミラルル/ミラレル}。(転んだところを太郎に見られる。)
- ・タローニ ヒジーコツ {サルル/サレル}。(太郎にひどいことをされる。)

〈可能形〉

能力可能、内的条件可能、状況可能の区別がある。能力可能と状況可能の区別は西日本を中心に日本各地で認められるのもので、「動作主体の身体内：外」かつ「ある程度永続的：一時的」という対立的な意味を持つ。さらに、この方言には、渋谷(1993)で「内的条件可能」とされる、「身体内」かつ「一時的」な(不)可能で、能力可能と状況可能の間に位置する意味区別が存在する。日高(1991)では、「主観状況可能」と命名されている。

能力可能は、多段型動詞のイ段形、一段型・二段

型動詞の基幹、「来る」は「キ」、「する」は「シ」に「キル」を後接した形を用いる。状況可能は受身形と同様の形式を用いる。「内的条件可能」は、多段型動詞のエ段形、一段型・二段型動詞の基幹に「ルル」を付ける。いわゆる「二重可能形」(渋谷:1993、松田:2005など)の形で使われる。

		能力可能	内的条件可能	状況可能
多段型 書く	肯定	カッキル	カケルル	カカルル
	否定	カッキラン	カケレン	カカレン
一段型 見る	肯定	ミキル	ミレルル	ミラルル
	否定	ミキラン	ミレレン	ミラレン

「する」は、他の型からの類推で「セレルル(否定形セレレン)」という独自の形が作られた。

「内的条件可能」の使用は、疑問形と否定形に偏る。しかし、「気持ち」「価値観」「体調」などが条件となった(不)可能を表す際に、他の形式では代替できないことから、この方言においては区別されていると見なせる。

- ・ハナコワ チーサーケド ヒトリデモ オキキルヨ。(花子は小さいけれど、一人でも起きられる。能力・肯定)
- ・タローワ メンキョオ モッチョルキ ヒトリデ コノシゴツ サルル。(太郎は免許を持っているから、一人でこの仕事ができる。能力・肯定)
- ・コン ヤリカタナラ ラクニ シナルル。(この方法なら楽に死ぬる。状況・肯定)
- ・ソナナ バラカシーコトジャ シネレン。(そんなばからしいことでは死ねない。内的条件・否定)
- ・ヨムヒマモナイシ ヨメレント オモーキモーアタラシーノワ シンブンワ トリマセーン。(読む暇もないし、読めないと思うから、もう新しいのは、新聞はとりません。内的条件・否定)

〈尊敬形〉

敬語の使用自体が活発ではない。

〈継続形〉

継続形のうち動作進行を表す形は多段型イ段形、一段型・二段型には基幹に「ヨル」、完了(結果継続)を表す形は多段型は基幹音便形、一段型・二段型には基幹に「チョル」「ジョル」が後接する。若年層では、前者の形式は「ヨン」「ヨー」、後者の形式は「チョン」「チャー」を使うことが多い。

- ・ハナコワ イマ テレビ ミヨル。(花子は今、テレビを見ている。動作進行)
- ・キンギョガ シンジョル。(金魚が死んでいる。完了)
- ・ヒタナベ ヒタドンナベッチ シツチャーカイ。(日田鍋、日田どん鍋って知っているかい。完了) [日田市大鶴本町③ 青年層 自由会話]

〈希望形〉

希望形には多段型動詞にはイ段形、一段型・二段型動詞には基幹に「タイ」を後接した形をとる。「タイ」は形容詞型の活用をする。非過去形は「テー」になる。

- ・マタ ココニ キテー(また、ここに来たい。)
- ・ミンナデ コン シゴツ シテー。(みんなでこの仕事をしたい。)

〈のだ形〉

「のだ」に相当する形式として「ト」「ツ」がある。文を終結させる場合は文末詞「バイ」を後接させ、「トバイ」となることが多いが、「ツバイ」もある。原因・理由節内でも「ナキ」、逆接節内でも「ツケド」など、準体助詞相当の「ナ」「ツ」に直接接続助詞が付く。

若年層では、「ンヤ」あるいは「トヤ」の融合した形「ツチャ」が使われる。

- ・タローワ ヒトリデ コン シゴツ スルトバイ。(太郎は一人でこの仕事をするんだよ。)
- ・チャンネルオ カエチクレンカ。ヤキューチャーケーガ ミテーツケド。(チャンネルを変えてくれないか。野球中継が見たいんだ。)
- ・モーチョット シター オトーサン カエツテ クルキー オサケデモ イッションノメバ イート オモイヨツタンヤケド。(もう少ししたらお父さんが 帰ってくるから、お酒でも一緒に飲めばいいと思って

いたんだけど。) [日田市大鶴本町③ 青年層 夜]

- ・キョーネー オカシ カイニ キタツチャン。(今日ね、お菓子を買いに来たんだよ。)

[日田市大鶴本町③ 中学生 買い物]

2. 形容詞・形容名詞述語・名詞述語の活用の特徴

【形容詞】

形容詞の活用形は基本的に1つの活用型であるが、中止形・否定形・なる形・過去形では、語幹末母音が a, i の場合に交替語幹を用いた形がある。語幹末母音が u, o の場合には交替がない。語幹末が e の語は存在しない。

形容詞	語幹末母音	交替後	例
アカイ (赤い) オキナイ (大きい)	a	o	アコーナル オキノーナル
オロイー (悪い) ハガイー (歯がゆい)	i	ju	オロユーナル ハガユーナル
エズイ (怖い)	u	u	エズ (-) ナル
オソイ (遅い) トオイ (遠い)	o	o	オソ (-) ナル トーナル

語幹1拍の「イー(良い)」と「ナイ(無い)」は活用が変則的である。

「イー(良い)」の変則的な活用は以下の通り。

- 断定非過去・連体非過去 イー・ヨカ
- 断定過去・連体過去 ヨカッタ
- 否定 ユーネー
- なる ユーナル

「イー」は交替語幹が「ユ」または「ヨカ」となり、「ナイ」は交替語幹が「ノー」「ネー」で、「なくなった」は「ノーナツタ・ネーナツタ」、「ナカロー(ないだろう)」、「ナカッタ(なかった)」であり変則的である。肥筑方言的な「ヨカ(良カ)」はあるものの、それ以外の形容詞は豊日方言的な特徴を持つ。

〈断定非過去形〉

「アケー」のように、共通語「アカイ」から連母音が融合した形をとる。下記表に、語幹末 a 以外の語についても記す。断定と連体の場合の形のちがいはない。

形容詞	連母音	融合後	例
アカイ (赤い) オキナイ (大きい)	ai	eR	アケー オキネー
オロイー (悪い) ハガイー (歯がゆい)	iR	iR	オロイー ハガイー
エズイ (怖い)	ui	iR	エジー
トオイ (遠い) オソイ (遅い)	oi	iR eR	トイー オシー・ オセー

〈断定過去形〉

形容詞の断定過去形・連体過去形は交替語幹（交替のない語の場合は語幹。以下同様）の長母音に動詞的な接辞「カッタ」、さらに「タ」が後接した形をとる。語幹に「カッタ」が付いた形もある。断定と連体の場合の形の違はない。

交替語幹「アケ」は、語幹の連母音融合形の短呼形に「カッタ」が後接し、「アケカッタ」となっている。

- ・キノー コータ トマトワ {アケカッタ／アカカッタ}。(昨日買ったトマトは赤かった。)

〈推量形〉

交替語幹に「カロー」を後接させた「アケカロー」がある。

- ・コン トマトワ ナカモ アケカローバイ。(このトマトは中も赤いだろう。)

〈連体非過去形〉

断定非過去形で用いる交替語幹の形より、語幹の形のほうが使われやすい傾向にある。

- ・アカイ トマトオ カウ。(赤いトマトを買う。)

〈連体過去形〉

断定過去形で用いる交替語幹の形より、語幹の形のほうが使われやすい傾向にある。

- ・キノーマデ アカカッタ ミガ クルーナ ッテシモータ。(昨日まで赤かった実が黒くなってしまった。)

〈中止形〉

交替語幹の「アコ(一)」などに、動詞「する」に由来する中止形「シテ」がついた「アコーシテ」のようになる。

- ・コン カミワ アコーシテ アン カミワ シリー (この紙は赤くて、あの紙は白い。)
- ・オモシテ チョット モッテ カエルトニ ホネオルキ。(重くて、ちょっと持って帰るのに大変だから。)

〈仮定形〉

仮定形には語幹に「ケレバ」の融合形「ケリヤ」が付く形をとる。

- ・ヒョットシテ ミガ アカケリヤ トロー。(もしも実が赤ければ採ろう。)

〈否定形〉

否定形は、交替語幹、またはその長音形に「ナイ」の融合・エ長音化(ai>eR)した「ネー」を後接した形をとる。

- ・マダ ミガ アコーネー。(まだ、実が赤くない。)

〈なる形〉

「なる」形には、中止形や否定形と同様に交替語幹の長音形を用いることが多い。

- ・コドモガ オキノーナル バイ。(子供が大きくなる。)
- ・ヒトリデ ミヨルト {エズーナル／エズナル}。(一人で見ると、怖くなる。)
- ・ミズオ スーチ オブナル。(水を吸って重くなる。)

〈副詞形〉

副詞形には、交替語幹の短呼形を用いる。

- ・カミオ アーコ ソムル。(髪を赤く染める。)

〈丁寧形〉

丁寧体自体があまり使われない。

〈のだ形〉

形容名詞述語の「のだ」形は、動詞述語と同様に、準体助詞「ツ」「ン」を用いる。文を終結させる場合は文末詞「バイ」を後接させ、「ツバイ」「ンバイ」となり、原因・理由節内でも「ナキ」、逆接節内でも「ツケド」など、準体助詞相当の「ナ」「ツ」に直接接続助詞が付く。

- ・コン トマトワ ナカマデ {アケーン／アケーツ} バイ。(このトマトは中まで赤いんだよ。)

【形容名詞述語・名詞述語】

形容名詞述語では、「シズカ(ジャ)」「シズカジャ

ツタ」など、名詞述語の「学生(ジャ)」「学生ジャツタ」に対応する活用型(形容名詞「シズカ」が名詞述語における名詞に準じている活用型)と、「シズカナ」部分が名詞述語の名詞に対応する活用型とがある。この品詞に属する語には、形容詞的な活用をとる語(「横着(だ)」「下作(だ)」「気の毒(だ)」)などがあり、それぞれ断定非過去形・連体非過去形は、「オーチャキー」「ゲサキー」「キノドキー」となる。

〈断定非過去形〉

形容名詞・名詞には、いずれも断定非過去形には共通語の「だ」に相当するコピュラは伴わず、それ単独か終助詞が後接した形をとる。

- ・ハナコワ {ガクセーバイ／ガクセーヨ}。
(花子は学生だ。)

〈断定過去形〉

「シズカジャツタ」「ガクセージャツタ」のように、断定非過去形・連体過去形は動詞的な接辞「ジャツ」に過去辞「タ」を後接する形をとる。

〈推量形〉

「シズカジャロー」「ガクセージャロー」のように、推量形は形容名詞・名詞に「ジャロー」が後接する。

- ・ムコーワ マダマダ シズカジャロー。(向こうはもっと静かだろう。)

〈連体非過去形〉

形容名詞述語の連体非過去形は「シズカナ」、名詞は名詞+「ノ」である。

- ・イロイロナ マー ギョーレツ ナニカマ タイソーナ ニーギアイジャツタ。(いろいろな、まあ、行列[や]何か、まあ大それた賑わいだった。)[日田市大鶴本町①老・壮年 帰宅]
- ・イマモ ガクセーノ トモダチ。(今も学生の友達。)

〈連体過去形〉

前述のとおり、断定過去形と同形である。

〈中止形〉

形容名詞述語の中止形は、「シズカデ」「ゲンキデ」など、形容名詞に「デ」を付ける。名詞には「ジ」を付ける。この方言には共通語の「デ」に相当する「ジ」があるため、形容名詞のほうが共通語化していることがわかる。

- ・コン ヘヤワ シズカデ アン ヘヤワ ギューラシー。(この部屋は静かで、あの部屋はうるさい。)

- ・ハナコワ ガクセイージ タローワ カイシャインバイ。(花子は学生で、太郎は会社員だよ。)

〈仮定形〉

形容名詞・名詞に「ジャツタラ」を後接する。

- ・マワリガモチット シズカジャツタラ ネムレルジャロー。(周りがもう少し静かなら、眠れるだろう。)
- ・モシ ハナコガ ガクセージャツタラ コン シゴトワ タノマレンバイ。(もし花子が学生なら、この仕事は頼めない。)

〈否定形〉

形容名詞・名詞に「ジャーネー」を後接する。

- ・キンノンゴツァ ゲンキジャーネー。(昨日ほど元気じゃない。)
- ・コレ アンタン カサジャーネーカネ。(これ、あんたの傘じゃないかね。)

〈なる形〉

共通語と同様に、形容名詞・名詞に「ニナル」を後接した形をとる。

〈副詞形〉

形容名詞・名詞に「デ」を後接した形をとる。

- ・ハナコワ ゲンキデ アソビヨル。(花子は元気に遊んでいる。)

〈丁寧形〉

名詞述語では名詞に「デス」を後接した形をとる。形容名詞には「デス」を後接する形はあるが、方言使用においてはあまり用いられない。

- ・ハナコワ ガクセーデス。(花子は学生です。)
- ・コン ヘヤワ シズカデス。(この部屋は静かです。)

〈のだ形〉

形式名詞述語には、連体非過去形に準体助詞「ン」による「ンヤ」「ンジャ」が後接するが、「のだ形」をとりにくい。

- ・デカケルチューコツワ イマワ タブン {ゲンキナンヤローネ／ゲンキナンジャローネ}。(出かけるってことは、今はきっと元気なんだね。)

名詞は、「のだ形」を持たない。

用例出典

「大分県日田市大鶴本町」①：松田正義・糸井寛一
(1993)『方言生活 30 年の変容 上巻』桜楓社(お
うふう)

「大分県日田市大鶴本町」②：松田正義・日高貢一
郎 (1993)『方言生活 30 年の変容 下巻』桜楓社
(おうふう)

「日田市大鶴本町」③：杉村孝夫・日高貢一郎・二
階堂整・松田美香 (2012)『大分県談話資料 (11)
一日田市大鶴本町一』科研費 研究成果刊行書(11)

参考文献

奥村三雄 (1958)「方言の区画」柴田武・加藤正信・徳
川宗賢編『日本の言語学 第 6 巻 方言』大修館書
店

小野米一 (1991)「第一章大分方言の概観 第四節 文
法」大分県総務部総務課編『大分県史 方言篇』59-
60 大分県

金田一春彦(1977)「方言のアクセントの違いの現状」
大野晋・柴田武編『岩波講座 日本語 11 方言』岩
波書店

渋谷勝己 (1993)「日本語可能表現の諸相と発展」『大
阪大学文学部紀要』33 巻 1 分冊 大阪大学文学部

日高貢一郎 (1991)「第五章 第一節 可能表現」大分
県総務部総務課編『大分県史 方言篇』263-272 大
分県

松田正義 (1991)「大分県方言の区画」大分県総務部
総務課編『大分県史 方言篇』第一章第二節「方
言区画」大分県

松田美香(2005)「表現が生まれるときー可能表現ー」
『日本語学』、24-14

松田美香 (2017)「大分県由布市庄内町」方言文法研
究会編『全国方言文法辞典資料集 (3) 活用体系
(2)』、143-153

(松田美香)

方言文法研究会編『全国方言文法辞典資料集(9)

活用体系(7)』オンライン先行公開版

公開日：2024 年 12 月 1 日

冊子版発行日：2025 年 3 月 (予定)